



新診療科長挨拶 / 口腔機能回復科長・高齢者歯科治療部長

服部 佳功（はっとり よしのり）

このたび口腔機能回復科長、高齢者歯科治療部長を拝命いたしました服部佳功です。口腔機能回復科は、顎関節症をはじめとする顎口腔の機能障害に対し、歯科治療を担当する診療科です。国内外で相次いで顎関節症の新しい診断基準や病態分類が策定されるなか、最新の科学的根拠に依拠した適切な治療的介入が実施できるよう、研鑽に努めております。一方、高齢者の歯科口腔保健・医療を幅広く担うのが高齢者歯科治療部です。高齢期に好発する歯科疾患といえば、歯周病と齲蝕、そしてそれらに継発する歯の欠損です。齲蝕や歯周病は幅広い年齢層の代表的歯科疾患ですが、顎口腔の感覚、運動、自律機能

の衰えや、服薬による唾液分泌低下などを背景に、有病率が一層高まります。高頻度歯科疾患といえども、患者さま個々に異なるリスク因子への適切な対応が不可欠であり、医療者には高度な専門性が求められます。私どもが外来診療に加えて、仙台歯科医師会の在宅訪問歯科診療事業に協力医を派遣しておりますのは、高齢者歯科医療の専門性の教育や研修に訪問診療の経験が不可欠と考えるからにはほかなりません。歯科補綴治療は歯などの欠損を義歯などの補綴装置で形態的に回復し、機能回復を期待する、私どもが専門とする歯科医療の一領域ですが、高齢者を対象とする場合にはより積極的に機能回復を求める姿

Dental Department

勢が重要です。口腔がほかならぬ摂食の場であること、食べることが歩くことや社会参加とともに高齢者の健康と密接に関与すること、食の虚弱化や低栄養が高齢者の生活機能や生活の質の低下を招くことを考えると、高齢者の摂食機能を維持向上することの必要は、向後ますます増大すると予想されます。高齢者歯科治療部、口腔機能回復科の2枚の看板で高齢社会に対峙する私どもに暖かなご支援を賜りますようお願い申し上げます。次期です。



新診療科長挨拶 / 咬合修復科長

江草 宏（えぐさ ひろし）

2014年4月1日付で咬合修復科長を拝命いたしました江草宏です。私は広島大学を卒業後、香港大学および米国UCLAへの留学を経て、大阪大学のクラウンブリッジ補綴学分野に勤務しておりました。いくつかの大学病院を渡り歩いて培った経験を、これからの診療科運営に最大限活かしていきたいと願っております。

我々の診療科が担当しているのは、補綴(ほとつ)歯科です。歯科治療における補綴とは、歯が欠けたりなくなった場合に、クラウン・ブリッジ、義歯あるいはインプラントなどの人工物で補うことをいいます。歯を失うと食事に困るだけでなく、栄養摂取能力や脳への刺激の低下な

ど全身的な健康への影響が危惧されます。高次医療機関である大学病院の一診療科として、重度疾病、高齢あるいは障害をおもちの患者さまに対する補綴歯科治療を、地域の医療機関と密に連携して行っていくことは極めて重要な責務と認識しております。補綴歯科治療を通じて患者さまの口腔症状の改善だけでなく、全身の健康状態や活動能力向上の寄与に努めて参りたいと存じます。

また、歯を失うことによって損なわれた口もとの審美性の回復も我々診療科の担当するところですが、当診療科では従来のクラウン・ブリッジ補綴治療に加え、CAD/CAM等のデジタル技術を取り入れ、メタルフリーの(歯科用金

Dental Department

属を使用しない)審美補綴治療を積極的に行っております。この技術は、近年問題となっている歯科金属アレルギーの患者さまにも大切な治療技術となります。お口の中の歯科金属によるアレルギーが疑われる患者さまがおられましたらご相談ください。東北地方における地域医療の発展のため、また何よりも患者さまの利益になる歯科医療を目指して微力ながらできる限りの努力をして参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



お知らせ

Information

耳鼻咽喉・頭頸部外科は2014年7月より完全予約制となりました。

新患日：月・水・金（祝祭日・年末年始を除く）
TEL 耳鼻咽喉／頭頸部外科外来：022-717-7755

老年科は2014年5月より完全予約制となりました。

老年内科新患日：水曜日（祝祭日・年末年始を除く）
もの忘れ外来新患日：水曜日（祝祭日・年末年始を除く）
TEL 老年科外来：022-717-7736

※患者さまをご紹介くださる医療機関は、必ず事前に地域医療連携センターへご予約のお申込みをお願いします。

編集後記

台風、豪雨、地震などが続いており、これ以上地球を壊してほしくないという思いを強くしています。今回の市民公開講座は「WOC」「ストーマ」という聞きなれない言葉を多くの方に知っていただく良い機会になったと思います。次回の講座は、2名の新しい科長を迎えた歯科部門の領域で「歯科インプラント」がテーマです。（地域医療連携係 高橋 京）

編集／発行

東北大学病院 地域医療連携センター
TEL：022-717-7131 FAX：022-717-7132
Eメール：ijik002-thk@umin.ac.jp
ご意見・ご要望は、地域医療連携センターまでお問い合わせください。

wit h

東北大学病院
地域医療連携センター通信
[With/ウイズ]

vol.30

2014年7月31日発行



イベント情報

第10回東北大学病院市民公開講座を開催しました

Event

6月28日(土)、仙台国際センターにて第10回市民公開講座「もっと知ってほしい 皮膚ケアと排泄ケア」を開催しました。

第一部の基調講演では、当院医師3名と看護師1名がスキンケアやキズの手当の仕方、ストーマについての講演をし、日常生活に役立つ内容となりました。

第二部の記念講演は、女優、ヘルスケアカウンセラーの石井苗子氏より「妹の介護から学んだスキンケア」と題して、介護の際のスキンケアの大切さについて

でお話いただきました。

第三部では、当センター海野センター長を進行役に、講演した当院の医師や看護師、ゲストの石井氏を囲んでのパネルディスカッションが行われ、参加者から寄せられた疑問や質問に答えました。

また、イベントコーナーでは看護師の指導のもとストーマの演習を行い、参加者は真剣に取り組んでいました。

今回の市民公開講座は、約800名の方にご来場いただきました。次回も皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



次回開催 第11回東北大学病院市民公開講座

インプラントで目指そう健康長寿 参加費無料

日時：2014年9月20日(土) 13時～

会場：仙台国際センター（仙台市青葉区青葉山）

記念講演：東北大学加齢医学研究所所長 川島 隆太 氏

体験イベント：歯磨き相談コーナーなど

事前のお申し込みが必要です。申し込み用紙にご記入の上、FAXでご返送ください。なお、はがきまたはE-mailでも受け付けております。

応募先 東北大学病院 地域医療連携室「市民公開講座」担当
はがき：〒980-8574 仙台市青葉区星陵町 1-1
FAX：022-717-7132 Eメール：ijik002-thk@umin.ac.jp
お問い合わせ：022-717-7131（市民公開講座担当）

※申し込み用紙は当院内で配布しております。当院ホームページからもダウンロード可能です。※はがきまたはEメールでお申し込みの際は、郵便番号・住所・氏名・電話番号・参加人数を明記の上、上記までお送りください。



東北大学病院

血液・免疫科は、白血病・難治性貧血・骨髄不全症などの血液疾患と関節リウマチ、SLEなどの自己免疫疾患を診療する内科です。病床数は現在45床で、そのうち17床が無菌室、準無菌室の特殊病室であり、東北地区の中心的病院として、先進的な診療を行っています。また、関連病院と密に連携し、患者さんの病態・

病状に合わせた最適な治療を行えるよう心がけています。さらに、血液・免疫領域ともに、積極的に治験を行っており、特に悪性リンパ腫を中心とした造血器腫瘍については、第I相試験から実施している治験も少なくありません。企業治験だけでなく、現在、複数の医師主導治験も進めています。

A. 血液疾患

1. 白血病、悪性リンパ腫、骨髄異形成症候群、多発性骨髄腫といった造血器腫瘍や、再生不良性貧血等の造血不全症、難治性貧血、血小板減少症などに対し最新の治療を行っています。特に、造血器腫瘍に対しては、分子標的薬や生物学的製剤、さらに必要に応じて造血幹細胞移植を組み入れ、疾患や患者さんの状態に合わせた最善の治療を行うように心がけています。主な疾患の昨年度の症例数(通院、入院含む)は急性白血病が約30例、悪性リンパ腫が約130例と東北地区のトップクラスの症例数です(図1)。

図1 血液疾患症例数(年間)

疾患	症例数
非ホジキンリンパ腫	121
ホジキンリンパ腫	8
急性骨髄性白血病	20
急性リンパ性白血病	8
慢性骨髄性白血病	9
慢性リンパ性白血病	4
骨髄異形成症候群	48
多発性骨髄腫	33

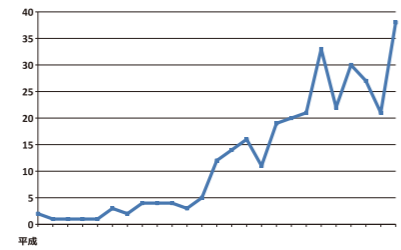
集計 2012年1月～12月

これらの疾患に対する先進医療を日本血液学会専門医・指導医、がん薬物療法専門医が行っています。

2. 白血病、骨髄異形成症候群といった造血器腫瘍、再生不良性貧血などの造血不全症に対し同種造血幹細胞移植を積極的に行っています。当院は日本骨髄バンク、日本さい帯血バンク両方の認定を受けた移植施設であり、血縁、非

血縁骨髄、さい帯血、いずれの同種造血幹細胞移植も実施可能な施設です。現在、これらの同種造血幹細胞移植を年間30例前後行っています(図2)。

図2 同種造血幹細胞移植数(年間)



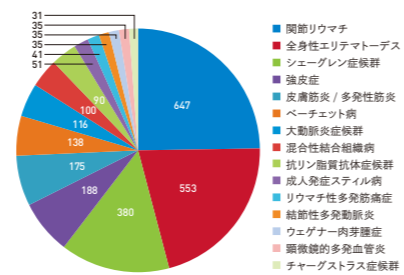
とくに移植後のQOLが良好なさい帯血移植移植に積極的に取り組んでおり、移植数の1/3～1/2がさい帯血移植です。さい帯血移植の移植数は全国10位(107件、1991～2012年)で、その治療成績も良好です。

B. 関節リウマチ・膠原病 (自己免疫疾患)

関節の痛みがあったり、発熱が続く場合は、関節リウマチ或いは膠原病(全身性エリテマトーデス、混合性結合織病、強皮症、皮膚筋炎、多発性筋炎、シェーグレン症候群、ベーチェット病、大動脈炎症候群などの血管炎症候群など)が原因である事が少なくありません。これらの病気は難病(厚生労働省指定の特定疾患)とされている場合も多いのですが、早期に発見し、適切な対応を行えば病気が重症となる事が防げますし、普通の生活を送ることも期待できます。当科では、免疫

抑制剤や生物学的製剤、時には血漿交換療法等の治療法を組み合わせた、最新の治療を行っています。主な疾患の昨年度の症例数(外来、入院を含む)は全身性エリテマトーデスが約500例、関節リウマチが約600例、その他の膠原病も東北地区のトップクラスの症例数です(図3)。

図3 免疫疾患症例数(年間)



当科は日本リウマチ学会教育認定施設であり、複数の日本リウマチ学会専門医、指導医が診療にあたっています。また、全身性エリテマトーデスに対する新薬の治験、膠原病による難治性皮膚潰瘍の体外衝撃波による治療法開発の臨床研究も行っています(写真1)。

写真1 膠原病における難治性皮膚潰瘍に対する体外衝撃波療法



現在、年間乳がんの罹患者は約6万名を超え、約1万2千名が死亡しています。つまり、乳腺外来に患者が毎年約4万8千名ずつ増加していることとなります。乳がん患者に特徴的な問題として、50歳前後が好発年齢のためライフサイクルの上で役割が大き、20歳代～40歳代では、結婚や妊娠・出産への不安が大きい、治療方法の選択肢があり、患者の意思決定が求められる、治療によるボディイメージの変化、セクシュアリティへの影響等があげられます。乳がんは、他のがんに比べて治療期間が長く、初発治療後10年以上の長期に渡って経過をみていくため、再発・転移への不安が続きます。このような複雑な問題を抱える患者に対して、専門的な支援を提供できる看護師が必要だと、2003年に乳がん看護が分野特定され、2005年に千葉大学で教育が開始されました。私は、2007年に乳がん看護認定看護師資格

を取得しました。

乳がん看護認定看護師の役割は、診断(病名告知)後の心理的サポート、治療選択のサポート、集学的治療に伴う看護、ボディイメージの変容への看護、リンパ浮腫の予防、患者・家族への実践のほかに、看護スタッフの指導あるいは相談に応じること、さらに多職種との連携によるチーム医療の推進などがあります。

私は、昨年より東北大学病院に勤務し、移植再建内視鏡外科・乳腺内分泌

外科病棟に所属しています。現在の私の活動は、主に周手術期、転移再発期の看護を実践しています。また、医師・外来・病棟・緩和ケアチーム、地域連携室との多職種カンファレンスに参加し、患者の問題を話し合ったり、多部門に通院している患者について、スタッフの相談に応じています。患者の療養の場は主に自宅です。患者ががんを抱えながら安心して生活できるよう、診断早期から関われる支援を構築していきたいと考えます。



中央診療施設等紹介 WOCセンター

WOCとは、W:wound(創傷)、O:ostomy(ストーマ)、C:continence(失禁)の頭文字をとったものです。当センターでは、褥瘡や人工肛門・人工膀胱(オストミー)及び失禁などに関する診療上の問題について、各診療科に分散していた医療情報を統合し専門性の高い医療を提供しています。

皮膚・排泄ケア(WOC看護)認定看護師と専任看護師の2名と、関連診療科(胃腸外科、形成外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、移植・再建・内視鏡外科)の専門医師が連携してストーマや褥瘡、失禁などのWOC領域の診療と理学療法士や医療ソーシャルワーカーなどと連携し、きめ細かな日常生活の指導、社会復帰への支援を行っています。

また、当院のWOCセンターは全国

の国立大学で唯一の専門施設です。メンバーは、毎日の診療の他、訪問看護師や他施設の医療者を対象とした講演や患者会での相談指導など院外の教育活動のほか、関連各学会での研究活動も積極的に行いWOC領域の質の向

上に努めています。さらに、2008年から宮城大学において「皮膚・排泄ケア認定看護師育成コース」が開講されましたが、当院はその実地修練教育施設として協力し、重要な役割を果たしています。



診療は予約制ですので、事前に電話連絡をお願いします。
TEL: 022-717-7652